

## 令和7年度 学校評価アンケート結果について

日頃より本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。先日実施いたしました「学校評価アンケート」の結果がまとまりましたので、その分析と今後の改善方針についてご報告いたします。

### 1. 全体的な傾向

全体として、「いじめへの対応」や「一人一人の大切にした指導」において、児童および教員の肯定感が高く、学校が安心安全な場所であるという認識が共有されています。一方で、「学校方針の周知」や「家庭学習の習慣化」については、保護者の皆様の評価と学校側の認識に乖離が見られ、今後の重点課題であると捉えています。

### 2. 主要項目の分析（肯定的回答率）

評価項目	児童	保護者	教員	前年度比（全体）
教育方針・目標の理解	85%	68%	100%	▼ 2.2
意欲的な学習態度	91%	77%	85%	▼ 4.8
一人一人を大切にした指導	93%	78%	96%	▲ 3.9
いじめ問題への対応	96%	74%	100%	▲ 1.9

### 3. 本校の成果と強み

- 安心・安全な学校づくり  
「いじめへの対応（児童 96%）」や「一人一人を大切にする（児童 93%）」において、極めて高い評価を得ました。日頃から教職員一人一人が危機管理意識を高くもち、いじめの早期発見・早期対応を心掛けたことが児童の安心感に繋がったと考えます。
- 相談支援体制の充実  
支援を必要とする児童への共通理解に基づく組織的対応も肯定率 92.3%と高く、個々の教員の資質に頼るだけでなく、学校全体で児童を見守るバックアップ体制を強固に構築しています。特別支援コーディネータによる教育相談やサポートルーム（校内教育支援センター）がよく機能しています。

### 4. 今後の課題と改善に向けた取り組み

- 学校経営方針のさらなる可視化  
保護者の「方針理解」が 68%と、教員の 100%に対し乖離があります。学校だよりやホームページだけでなく、学級懇談会等を活用し、「具体的にどのような子供を育てようとしているか」をより分かりやすく発信します。
- 意欲的な学習態度の育成  
教職員間で「意欲的な学習態度」とは具体的にどのような姿を指すのかを再定義し、その具体像を児童や保護者にも「目指す姿」として分かりやすく提示し、評価基準のズレを解消します。宿題の質的改善や、タブレット端末を活用した自主学習の提示など、家庭と連携して「学びのスイッチ」を入れる工夫も検討していきます。
- 地域連携の強化  
家庭や地域との連携協力（保護者 67%）についても改善の余地があると考えます。学習や行事において、今年度も家庭や地域の方々にご協力をいただいているところであります。来年度は、早めに周知・依頼をし、より多くの保護者や地域の方にご協力いただけるよう努めてまいります。

今回の結果を真摯に受け止め、教職員一丸となって教育活動の質を向上させてまいります。今後とも、本校の教育への温かいご支援をお願い申し上げます。